

科目名称：	基礎教養 I (ビジネス実務学科)	
担当者名：	岡野 絹枝、 矢澤 建明、 若月 博延、 坂上 牧子、 丹羽 篤志	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>本演習は、初年次教育と職業理解を組み入れたプログラムで、入学目的の確認、大学生としての正しい日本語表現のマスター、基本知識のセルフアセスメント(自己評価)などの自己理解、職業理解・職業設計、他人との協力方法などのグループワークを行うものです。まず、大学生としてのレポート作成・情報リテラシー・プレゼンテーションの基礎を学びます。「自己理解」では、自分に不足していることを確認し、「職業理解・職業設計」では、自分の興味関心・適性・価値観に基づいて将来ビジョンを描きます。また、様々な職業分野の話聞き、「働く」ということについて考えます。さらに、社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を伸ばしていくことも目標としています。そのため、体育祭等の課外行事で他者と協力することも積極的に奨めます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>自己分析結果と職業理解から各自の進路を模索し、各自に最適なフィールド・ユニットを選択できるよう導きます。また、大学生としての正しいレポートの書き方や、グループワークなどで他人との協力方法など、社会人基礎力を修得することが目標です。</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	重点項目
DP (1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	○
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP (3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP (1)			80	20	100
全学DP (2)					0
全学DP (3)					0
全学DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容 (内容・経験年数を記載)
なし	

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
形式	原稿用紙を正しく使っている。指定された文章量を書いている。文体が統一されている。正しい表現を使っている。	原稿用紙使用・文章量・文体・表現のうち3つができています。	原稿用紙使用・文章量・文体・表現のうち2つができています。	原稿用紙使用・文章量・文体・表現のうち1つ以下しかできていない。
内容	具体的な内容で、読み手に伝わりやすく、まとまった内容の文章を書いている。	具体的な内容に少々欠けるが、まとまった内容の文章を書いている。	抽象的で、読み手に伝わりにくく、内容のまとまりに欠ける文章を書いている。	内容にまとまりがなく、読み手に伝わらない文章を書いている。
誤字・脱字・漢字の利用・文字の丁寧さ	誤字・脱字がない。使うべき平易な漢字を正しく使い、丁寧に、読みやすい文字を書いている。	誤字・脱字・漢字がひらがなとなった部分が1か所ある。また丁寧に書いているが、筆圧が薄いなど読みづらい文字を書いている。	誤字・脱字・漢字がひらがなとなった部分が2～4か所ある。また、読むことは可能であるが、丁寧に欠ける文字を書いている。	誤字・脱字・漢字がひらがなとなった部分が5か所以上ある。ぞんざいな文字で、判読に困難な文字を書いている。
授業への積極的関与	授業規律を守り、かつグループワークでは積極性がある。	授業規律を守っているが、グループワークでは積極性に乏しい。	グループワーク積極性があるが授業規律を守らない時がある。	グループワークの和を乱し、授業規律も守らないことがある。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 オリエンテーション：金城大学短期大学の沿革と教育目的。授業ガイダンス(大学での学び方、基礎教養を学ぶ、今後の予定など)	シラバスを熟読して授業全体の概要を把握しておく。	10分
第2回 大学でのレポートの書き方。原稿用紙の利用方法。	文章表現のドリルをこなしまとめておく。	20分
第3回 セルフアセスメント(自己評価)：「コミュニケーションスキル」、「文書作成スキル」、「ITスキル」	コミュニケーションスキル、文書作成スキル、ITスキルの自己習熟度について考えてまとめておく。	20分
第4回 対立する意見を対比させてレポート作文を書く。	対立する意見について、双方のよいところ、よくないところを調べてWebフォームに記入する。	90分
第5回 600字程度の文章を200字程度に要約してみる。	課題に目を通しておき、キーワードを調べてまとめておく。	20分
第6回 情報の収集と整理：身近なニュース・問題に対して情報収集する(フェイクニュースに騙されない方法)	課題に対するニュース・情報をまとめておく。	20分
第7回 情報の整理とプレゼンテーション：第7回で収集した情報を整理し、プレゼンテーションする	プレゼンテーションの準備	20分
第8回 小論文：ある課題で小論文に取り組む。そのための設計図作成。	課題を下調べしてまとめておく。	20分
第9回 小論文：前回の設計図を基に、小論文を書く。同時に図書館の利用し、親書を借りる。	小論文の設計図をまとめておく。課題図書を読み込み、最終日までに要約する。	30分
第10回 アクティブラーニングの基本：グループワーク	アクティブラーニングについて調べておく。	30分
第11回 キャリアデザインの基礎：キャリアマップの作成と持ち味リスト	自分の興味のある項目について考えてまとめておく。	20分
第12回 職業理解Ⅰ：企業人講話「専門職種の内容①」	講話担当講師の企業について、HP等で調べておく。	30分
第13回 職業理解Ⅱ：企業人講話「専門職種の内容②」	講話担当講師の企業について、HP等で調べておく。	30分
第14回 職業理解Ⅲ：企業人講話「専門職種の内容③」	講話担当講師の企業について、HP等で調べておく。	60分
第15回 前期のふりかえりと今後のキャリア形成プランの作成。今後の目標・計画を立てる。	これまでの授業内容をふりかえってまとめておく。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記しましたが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要です。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリントをまとめることとなります。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりです。
定期試験はありませんが、途中で自己診断学力テストⅡ：数学・国語を実施します。テスト結果で基準に満たない場合は、特別講座を受講しなければなりません。そのほか、レポート・授業内課題80%、授業への貢献・積極的関与および課外行事を20%で評価します。

課題に対するフィードバック

授業内で提出したレポートについて、評価し返却します。

教科書・参考書

必要な資料等はその都度配付します。